

全国「柳屋さん」探し PART 7

和・洋菓子の柳屋さん



第二十四回全国菓子大博覧会 名誉総裁賞 受賞

今回の「全国柳屋さん探し」は昨年創業60周年を迎えられた北海道函館市の「和・洋菓子の柳屋さん」をご紹介します。

柳屋さんの“目玉商品”は何といても“いかようかん”

です。それは本物と見間違えるほどの姿・形をした手作りの工芸菓子で、98年の第23回全国菓子大博覧会では厚生大臣賞、02年の第24回熊本大会では文化部門名誉総裁賞に輝いた商品で、1日50パイの限定商品として販売されています。函館名物「いかようかん」は求肥餅とコーヒー餡を羊羹生地で包まれ、その味も抜群で、お土産には欠かせない逸品です。

＜3代目 若杉充宏代表取締役社長のお話＞

当社は昨年60周年を迎えた和・洋菓子店で、現在私で3代目です。創業当時の社名は若杉商店でしたが、和菓子屋のイメージに合った社名に替えようということで、平成5年、2代目のときに「柳屋」に変更しました。

社名の由来はことわざにもありますように、「柳に雪(風)折れなし」から付けられたもので、柳の枝はよくたわむので雪が積もっても、風が吹いても折れることがないことから「柳屋」となりました。

以前は和菓子、洋菓子とも柳屋で販売していましたが、洋菓子については平成16年に柳屋に隣接して専門店の「ウインドミル」を建設しました。そのほか、現在は函館市内の11店舗にて販売を行っています。

また、当社は函館に所在することから、函館市の魚である「いか」をモチーフに話題づくりの商品開発を行いましたところ、平成9年に「いかようかん」が完成しました。本商品は全国菓子大博覧会で名誉総裁賞を受賞するなど注目を集め、タレントの間寛平さんや野々村誠さんなどもご来店して頂き、テレビ取材も多くなりました。「いかようかん」は沢山の方に賞味頂きたいのですが、なにぶん手作りですので数量を限定していますので、事前にご連絡頂ければ出来る限りの対応を致しますので、是非お問い合わせ下さい。

「包装デザインで開港150周年事業を応援」

函館市は、昨年開港150周年を迎え、柳屋さんの包装紙も一工夫されました。昨年は1859年に米・英・仏・蘭・露との修好通商を定めた「安政の5カ国条約」が発効され、鎖国状態にあった日本の5つの港(函館、新潟、横浜、神戸、長崎)が開港され、自由に貿易が始まってから150年目に当たり、函館で様々なイベントも開催されました。

前回のWillow10月号においても「横浜開港150周年記念事業」として関係深い長州・山口でも産学官フォーラムが開催された事をお伝えいたしました。函館においても同様に記念事業が開催されました。

＜会社プロフィール＞

株式会社はこだて柳屋

(創業) 昭和24年(昨年60周年)

(従業員) 86名*うち製造工場40名

(売店) 函館市内に11店舗

(所在地) 〒040-0075函館市万代町3-13

tel 0138-42-0989 fax 0138-42-0996

和・洋菓子 はこだて 柳屋

<http://www.ikayokan.com>

☎ 0120-42-0989



平成14年第24回全国菓子大博覧会名誉総裁賞受賞
函館銘菓「いかようかん」 1パイ 1050円

